

2021年度 大学院(修士課程)入学試験問題

(政策学研究科)

(科目名:環境政策)

2021年2月20日(土)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

次の文章を読んで問いに答えなさい。

世界全体で今世紀後半の温室効果ガスの排出と吸収の均衡に向けた取組が加速する中で、政府はパリ協定(1)長期成長戦略懇談会(パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略策定に向けた懇談会)による提言を踏まえ、長期戦略の検討を進めてきました。長期戦略は、2019年6月11日に地球温暖化対策推進本部で了承の上、閣議決定し、同年6月26日に気候変動枠組条約事務局に提出しました。

この戦略では、ビジョンとして、最終到達点としての「脱炭素社会」を掲げ、それを野心的に今世紀後半のできるだけ早期に実現することを目指すとともに、2050年までに80%の温室効果ガスの削減に大胆に取り組むこととしています。G7では、初めて「脱炭素社会」を掲げた長期戦略です。

政策の基本的な考え方として、このビジョンの達成に向けて、ビジネス主導の非連続なイノベーションを通じた「環境と成長の好循環」の実現を目指すことや、将来に希望の持てる明るい社会を描き行動を起こすことなどを盛り込んでいます。

そして、エネルギー、産業、運輸、地域・暮らし等の各分野のビジョンとそれに向けた対策・施策の方向性を示しています。具体的には、エネルギーについては、エネルギー転換・脱炭素化を進めるため、再生可能エネルギーの主力電源化(2)をはじめあらゆる選択肢を追求することとしています。また、産業については脱炭素化ものづくりを進め、運輸については、2050年までに、世界で供給する日本車のxEV(電動車:電気自動車、プラグイン・ハイブリッド自動車、ハイブリッド自動車、燃料電池自動車)化を進め、世界最高水準の環境性能を実現する(3)とともに、世界のエネルギー供給とも連動し、燃料から走行までトータルでの温室効果ガス排出量をゼロにするWell-to-Wheel Zero Emissionチャレンジへの貢献を掲げています。地域・暮らしについては、地域循環共生圏を創造し、レジリエントで快適な地域と暮らしを実現するとともに、2050年までに可能な地域・企業等からカーボンニュートラルを実現することを目指します。このほか吸収源対策についても着実に取り組むこととしています。

(出典:環境省『令和2年版 環境・循環型社会・生物多様性白書』47ページ)

問1:下線部(1)の「パリ協定」の内容を200字以内で説明しなさい。

問2:下線部(2)について、再生可能エネルギーの主力電源化にあたって必要と考えられる施策を400字以内で述べなさい。

問3:運輸部門に必要な温暖化対策に関し、下線部(3)で挙げられているもの以外の施策ではどのようなものが必要だと考えられるか、自らの考えを400字以内で述べなさい。

得点

2021 年度 大学院(修士課程)入学試験問題

(政策学研究科)

(科目名:英語)

2021 年 2 月 20 日(土)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

次の英文を読み、必ずその内容に言及しながら、あなたの意見を英語、日本語の両方の言語で記述しなさい。
(マス目横書の解答用紙には、日本語で600字程度で書きなさい。罫線ヨコ書解答用紙には、英語で300 words 程度で書きなさい。)

【引用部分は削除しています】

【引用部分は削除しています】

得点

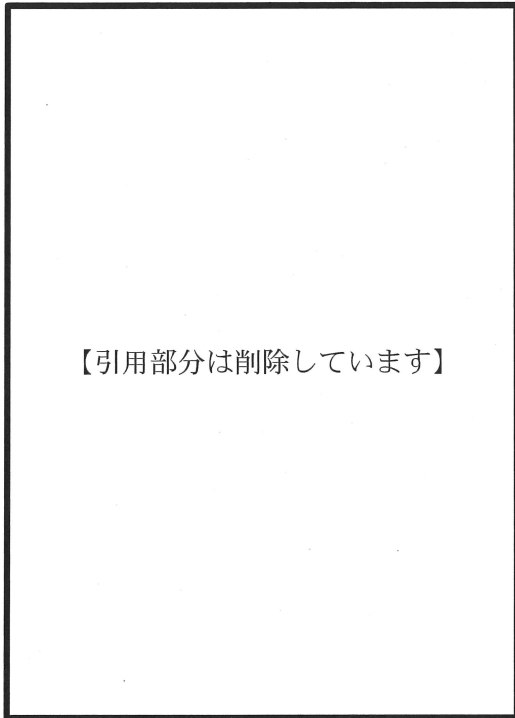
2021 年度 大学院(修士課程)入学試験問題

(政策学研究科)

(科目名:英語)

2021 年 2 月 20 日(土)

受験番号		氏名	
------	--	----	--



Japan Times, Aug 9, 2020 (一部中略)

得点